

図書館内ブラブラ歩きの勧め

永井 理恵子

私のゼミナールでは、学生が各自の研究関心に
応じて研究を進めるが、沢山の文献（本）を読む
ように指導する。その際に私のほうから課題図書
を指定することもある一方、学生が自ら図書館に
行って開架図書から本を探してくるよう指示も
する。学生が、自分の足で探した本を持参して来
て、それらの中から学生が読むに適した本を私が
選ぶ時、いつも驚かされることがある。それは、
まだ研究を始めたばかりの学生であり、優れた研
究者の名も知らず、専門知識も全く持たない入門
段階であるにも拘わらず、学生が自ら探して持参
する本には、良書が実に多いという点である。

聖学院大学の図書館に良書が多く所蔵されてい
ることも確かなのだが、それに加え、良書が持つ、
人を惹き付ける力もあるように感じる。

私が大学院生だった時、指導教授から、次のよ
うなことを言われた。「本は、著者が心を込め、
命を注いで書いたものだ。だから本には、著者の
魂が宿っている。本は、自分（本）に会いたいと
思っている人、自分（本）の中に書いてあること
に興味を持っている人を、耳には聞こえない声で
呼んでいる。だから図書館では、そうした本の声
が聞こえるように、耳を澄ませ、心を静かにして、
本を探すことが大切なのだ」と。

今日では、図書館の本を探す時はネットを使用
して検索し、購入もネットで注文することが多
い。だが、そんな時代でも、図書館に並ぶ開架図
書をブラブラ見て歩くという行為は、実に楽しい
体験である。専門分野の書棚は勿論のこと、専門
外の書棚でさえも、日頃、不思議に思っていたり
心に引っかかっていたりすることが書かれた本を
見つけることができる。静まりかえった図書館の
開架書棚には、本たちが発する声が、さざめいて
いる。

図書館では、心静かに、本の声に耳を傾け、未
知の知識との出会いを楽しみたい。図書館は、日
頃の生活からの夢飛行をさせてくれる場所であ
る。

（児童学科 准教授）